

研究テーマ： 広島県の英学史資源を活用した英語教育方法の改善	
研究代表者（職氏名）： 准教授 馬本 勉	連絡先 (E-mail 等) : umamoto@pu-hiroshima.ac.jp
共同研究者（職氏名）：	

研究の目的

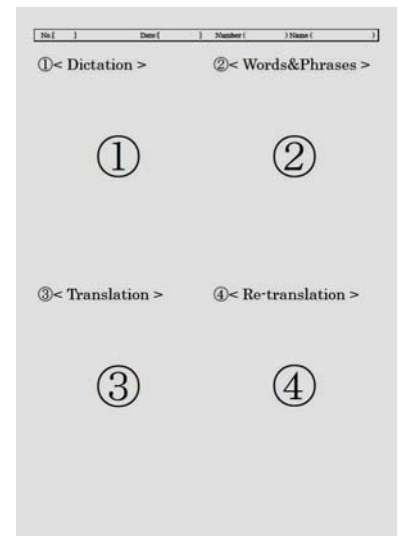
- (1) 広島県の英学史資源（主に英語教育史資料）を収集し、データベースを作成する。
- (2) 資料の分析を通じて、現代の英語教育改善に資する。

研究成果の概要

- (1) 明治期以降の広島県英語教育史資料を収集。画像およびテキストによるデジタルデータ化。
(収集した主な資料)
 - ・明治期の庄原英学校関係資料（教科書、独習書、カリキュラム等）
 - ・庄原英学校に関係した地元出版社関係資料
 - ・倉田百三関係資料（主に、英訳された作品とその研究に関するもの）
 - ・広島中學校において明治期以降に使用された英語教科書、大正期に編纂・発表された語彙教材
 - ・広島県出身者によって編纂された大正期の英語教科書、英語参考書
 - ・広島高等師範学校出身者の行った授業実践記録
- (2) 収集した資料の分析により、明治期以降、日本で用いられた教授法・学習法は、現代の英語教育に十分応用が可能であることを指摘。大学における授業で効果的であると思われる手法を抽出。
 - ・発音を重視し、ディクテーション（書き取り）の練習を課す。
 - ・英文解釈においては、文の組み立てを十分理解した上で、直訳から意識への筋道を示す。
 - ・和訳によって出来た日本語を英訳し、原文の英語と比較する。
 - ・解釈や作文に必要な重要語に配慮し、効果的に語彙力を高める練習を課す。
- (3) 上で抽出した学習方法をシステム化し、教材フォルダに保存した「音声ファイル」「解説スライド」、および「ワークシート」を組み合わせた「DTR学習法」を開発。平成19年度後期の授業から導入した。公開講座や教員研修会においても積極的にこの学習法を紹介した。

DTR学習法

1. DTR シート：A3 サイズに拡大し、4 つ折にして使用（①左上<Dictation>、②右上<Words & Phrases>、③左下<Translation>、④右下<Re-translation>）
2. 学習素材となるテキストを用意し、黙読、音読、シャドーイング。語句の確認（②面）。
3. Dictation（①面）：英文の聞き取り・書き取り。推敲と添削を行う。添削時に語句の確認（①②面）。
4. Translation（①②③面）：訳読。意味のまとまりごとに頭から訳す「直読直解」を目指す。解説スライドで訳文の確認。
5. Re-translation（③④面）：復文。日本語訳（直読直解）を見ながら



英作文。推敲した後、音声を聞いて確認。元の英文を見て添削。

6. 全体の確認 (①②③④面) : ①面 (聞き取り) と④面 (復文) の英文を比べ、自己分析。

7. 音読、シャドーイング、暗唱を行い、テキストを完全に自分のものにする。

(4) 以上の成果は、本テーマにかかわる研究基盤として構築したウェブサイト上に公開している。

ウェブ公開に当っては、検索システムを導入するとともに、各項目を記述した本文中にサイト内外へのリンクを張り巡らせている。(http://tom.edisc.jp/hiroshima/)



「広島県の英学史」情報検索サイト

研究のまとめと今後の課題

- ・2年間で収集した英学資料は、当時の英語教育の様子を知り、現代の英語教育改善へのヒントを探る上で貴重なものであった。
- ・収集した資料の分析を通じ、英学史・英語教育史研究に新たな視点を提供することができた。
- ・デジタル化した情報を検索機能付きのウェブサイト上に公開した。これにより、広島県の英学史資源を活用するための研究基盤を整備することができた。
- ・歴史研究の成果から生み出された「DTR学習法」を、英語指導のための一手法として提案した。
- ・「DTR学習法」は学生からの好意的な反応を得ている。集中力が高まり、英文の深い理解と確かな表現力を身につける手法であることが、前期に実施した学生アンケートからも伺える。
- ・「DTR学習法」のために用意した音声ファイル、解説スライドを「いつでもどこでも」活用できるよう、「教材フォルダ」を学外からも利用できる仕組みの構築が望まれる。eラーニングの基盤整備の一環としてこれが実現すれば、「DTR学習法」の推進に弾みがつくものと思われる。